

R元年大豆栽培農事メモ 第3号 (エンレイ版)

令和元年7月23日
白山石川営農推進協議会
石川県農業共済組合
松任市農業協同組合

1 生育状況

- 播種の早いほ場では開花が始まっており、開花盛期は7月20日頃となっています。
- 長期の滞水は、生育遅延や根腐れを引き起こすので、降雨後は排水路を点検・連結し、**速やかな排水対策を徹底**してください。



里のほほえみ エンレイ

2 早急に培土と追肥を実施しましょう！

生育量を確保するため、**一発肥料を用いていない圃場では**2回目の培土と追肥を圃場条件に合わせて速やかに実施する。

ただし、**すでに開花期を迎えた圃場は2回目の培土は実施しない**（開花期以降の培土は、根の切断による生育抑制や落花に繋がる）。

なお、**培土ができなかった場合でも、開花期までに追肥を施用**する。

播種区分	培土・追肥時期	追肥（肥料名、施用量）
6月播種	7月 末日まで	硫安 10kg/10a または NK17号 11~13kg/10a

3 高温乾燥時や強風時は、畦間灌水を実施しましょう！

- ・開花期（7月中下旬）～莢伸長期（8月上・中旬）にかけては干害の影響を受けやすく、圃場の乾燥が続くと着莢数が減り減収します。
- ・開花期以降、**乾燥が続く場合、葉が裏返る前に、早めに畦間灌水**（地温の低い夕方から早朝にかけて行うのが望ましい）を実施しましょう。
- ・畦間灌水を円滑に実施するため、**畦間のつなぎや排水溝等の点検**を行い、入排水がスムーズにできるようにしましょう。
- ・長期の停滞水は、根の機能低下、地上部の生育不良等の生育障害を生じさせるため、**大雨や畦間灌水後は速やかに排水**しましょう。



4 除草対策・除草剤の散布により雑草の発生を抑えましょう！

除草剤名	適用雑草名	使用時期 [収穫前日数]	10a 当たり使用量 (希釈水量)	散布方法	使用回数
バスタ液剤	畑地一年生雑草 【非選択性】	畦間処理 ：雑草生育期 [収穫28日前まで]	300~500 mL (100~150L)	雑草茎葉散布	3回以内
プリグロックスL	畑地一年生雑草 【非選択性】	畦間処理 ：雑草生育期 (草丈30cm以下) [収穫3日前まで]	600~1000 mL (100~150L)		4回以内
ラウンドアップ マックスロード	畑地一年生雑草 【非選択性】	畦間処理 ：雑草生育期 [収穫前日まで]	200~500 mL (通常散布50~100L) (少量散布25~50L)		2回以内

※いずれも大豆にかかると枯れるため、注意して散布して下さい。

5 適期防除で収量・品質の向上に努めましょう！

紫斑病やカメムシ類などの防除を徹底し、
きれいな大豆を生産しましょう。



(1) 粉剤防除

	生育ステージ	使用時期の目安	使用薬剤名 [収穫前日数]	10a 当たり 使用量	対象病害虫名	使用回数
1回目	幼莢期 (開花後15日頃)	8月1~5日	スミチオンベルコート 粉剤DL [収穫21日前まで]	3kg	紫斑病、カメムシ類、 マメシクイガ*	4回以内
2回目	子実肥大初期	8月10 ~15日	スミチオンベルコート 粉剤DL [収穫21日前まで]	3kg	紫斑病、カメムシ類、 マメシクイガ*	4回以内
3回目	子実肥大後期	9月1~5日	トレボン粉剤DL [収穫14日前まで]	4kg	カメムシ類、ソイイモジ マダラメイガ*、マメシクイ ガ*、ハモンヨトウ、 アブラムシ類、他	2回以内
随時	開花期～幼莢期 (7月下旬～8月上旬)	ウコンノメイガ 初発時	サイアノックス粉剤 [収穫7日前まで]	4kg	ウコンノメイガ*	2回以内
	子実肥大後期 以降	カメムシ 多発時	MR. ジョーカー粉剤DL [収穫7日前まで]	4kg	カメムシ類	2回以内

(2) 液剤防除

	生育ステージ	使用時期の 目安	使用薬剤名 [収穫前日数]	希釈倍数 (10a 当たり 使用量)	対象病害虫名	使用回数
1回目	幼莢期	8月1 ~5日	混用 Zボルドー水和剤 カスケード乳剤 [収穫7日前まで]	500倍 (100~300L)	紫斑病、葉焼病 斑点細菌病	-
				4,000倍 (100~300L)	カメムシ類、ハモンヨトウ ウコンノメイガ*	2回以内
2回目	子実肥大初期	8月10日 ~15日	アミスタートレボンSE [収穫14日前まで]	1,000倍 (100~400L)	紫斑病、カメムシ類	2回以内
3回目	子実肥大後期	9月1日 ~5日	スタークル液剤10 [収穫7日前まで]	1,000倍 (100~300L)	カメムシ類	2回以内
随時	開花期～幼莢期 (7月下旬～8月上旬)	ウコンノメイガ 初発時	プレバソンフロアブル5 [収穫7日前まで]	4,000倍 (100~300L)	ウコンノメイガ*	2回以内
	子実肥大後期 以降	カメムシ 多発時	トレボン乳剤 [収穫14日前まで]	1,000倍 (100~300L)	カメムシ類、ハモンヨトウ マメシクイガ* アブラムシ類、他	2回以内

農薬・除草剤の使用では、使用基準を守り適正に使用し、周囲への飛散に注意するとともに、作業は熱中症予防のため、特に暑い日は無理をしない！

近年、子実肥大期に葉を損傷し、豆の充実を低下させるウコンノメイガや葉焼病の発生が増えています。初発時の発生状況を確認し、適切に防除しましょう。